UMIGOMI FORUM MIE

海ごみフォーラムみえ

未来にみえの海をつなぐプロジェクト

海洋ごみ問題を知り今からできることを考える

日本財団 海と日本 PROJECT　CHANGE FOR THE BLUE 海の未来を変える挑戦

主催：未来にみえの海をつなぐプロジェクト
共催：日本財団「海と日本プロジェクト」／三重県
海と日本プロジェクトin三重県実行委員会

世界中で海洋ごみの問題に注目が集まる中、未来にみえの海をつなぐプロジェクト委員会は10月19・20日、ボートレース津のツッキードームなどで「海ごみフォーラムみえ」を開催しました。私たちの生活で広く使われているプラスチックはその多くが使い捨てです。これらがごみとなって海に流出し魚や海鳥、ウミガメ、クジラなどが誤食することにより、傷ついたり死んでしまう例が数多く報告されています。プラスチックごみはやがて小さなマイクロプラスチックとなり、海の生態系に取り込まれ人体に影響を及ぼすことも懸念されています。同フォーラムはこうした海洋ごみを身近な問題としてとらえ、海岸漂着ごみの現状を知り、美しくきれいな海を取り戻すために一人ひとりに何ができるかを考えるため開催されました。

オープニングセレモニーで渡邉信一郎三重県副知事は「三重県は1,140キロという長い海岸線を持った県です。しかしながら海ごみ漂着の課題を抱えています。海ゴミのことを知り、三重の海の未来を守る挑戦にぜひご参加いただきたい」とあいさつ。前葉泰幸津市長も「海岸線は私たちにとって非常に大きな意味があります。一つは防災、次に観光、更にはスポーツの場でもあり、三重とこわか国体の会場にもなります。美しく豊かな海を自分たちで守らなくてはなりません」と来場者に呼びかけました。

「海ごみディスカッション」きれいなみえの海を残すために

第一部は、鳥羽市答志島の奈佐の浜を中心に清掃活動を行っている「22世紀奈佐の浜プロジェクト」委員会の小浦嘉門委員長、三重県環境生活部の井戸畑真之部長、日本財団「海と日本プロジェクト」in三重県のリポーター・宮本梓さん、名張市出身でみえの国観光大使でもあるWエンジンのチャンカワイさんをパネリストに迎え、フリーアナウンサー星野あゆみさんの司会で、「海ごみディスカッション」が開催されました。

三重県環境生活部
部長 井戸畑真之氏

流れ着くゴミは年間5,000トン！

星野　本日は海ごみ問題、特に海洋プラスチック問題に焦点を当て討論していただきたいと思います。22世紀奈佐の浜プロジェクトではどのような活動をされているのですか。

小浦　奈佐の浜には年間5,000トンのごみが漂着します。この問題を深刻に捉え発足して今年で8年目。10年目にはこれを半減しようと頑張っています。

星野　最初のテーマは「伊勢湾のごみの現状」についてですが、チャンさんの「海ごみ」に対するイメージを教えてください。

チャン　仕事で世界中の海でダイビングしてきましたが、ビニール袋が多く特に目につきますね。ペットボトルも浜辺に流れ着いていて魚がかわいそうです。

星野　奈佐の浜はどういう状況ですか。

小浦　本当にさまざまなごみが流れ着きます。プラスチックごみはじめ、流木、テレビに冷蔵庫まで…。

井戸畑　県の調査では伊勢湾岸に流れ着くごみは年間約1万2,000トン。そのうち65％、3分の2が三重県に流れ着き、残りの3分の1が愛知県に漂着していると推定されます。

宮本　私は台風19号の翌日に答志島に行きましたが、台風の影響もあってかペットボトルなどのプラスチックごみや流木が多かったです。砂浜のほとんどが漂着物で埋め尽くされた状態で、このままではいけないと感じました。

海ごみが流れ着く答志島・奈佐の浜

小浦　漁にも大きな影響があります。ごみで船のスクリューや網が傷んで大変困ります。

星野　海洋ごみはどこから来ているのでしょうか?

宮本　海洋ごみの8割は街から来ていると考えられています。

井戸畑　ポイ捨てや散乱してしまったごみが雨や風とともに排水溝に流れてしまうなどその理由はさまざまですが、私たちの何気ない行動が海を汚していることを皆さんに分かっていただけたらと思います。

22世紀 奈佐の浜プロジェクト委員会
委員長 小浦嘉門氏

海を知り海と生きる…

プラスチックごみが引き起こす問題

星野　続いてのテーマは「海洋プラスチックごみ」です。現在、海を漂っている量が1億5,000万トンに達し、年間800万トン発生していると言われている海洋プラスチックごみ。小浦さん、実際にプラスチックごみは多くなったと感じますか。

小浦　目立ちますね。いつまでも消えないのでいろんな悪影響を及ぼしています。

星野　三重県の対策はいかがですか。

井戸畑　プラスチックを海に流さないことが大事だと思っています。一つは資源として回収してリサイクルし、別の製品にする。いわゆる再資源化に市町単位で取り組んでいます。また使い捨てプラスチック、例えばペットボトルやレジ袋をできるだけ使わないように三重県では平成19年度から全国に先駆けてレジ袋削減マイバッグ運動に取り組んでいます。平成24年度からは全市町で取り組まれています。

みえの国観光大使
Wエンジン チャンカワイ氏

星野　日本では年間約1,000万トンのプラスチックが消費されており、そのうち84％がリサイクルされています。ただ、全体の57・5％が「サーマルリサイクル」という燃やしてそのエネルギーを回収する方法です。つまり、化石燃料を燃やしCO₂を排出しているので、地球温暖化の視点では持続可能な方法ではないとされています。

宮本　ペットボトルやビニール袋、洗剤の容器などが多く捨てられていて、私も普段ポイ捨てされているごみを見て見ぬふりしてしまうこともあるのですが、そういうごみが海に流れてしまうと考えると、それではいけないと思います。

星野　プラスチックごみが分解されるのにも長い時間がかかります。ペットボトルは400年、釣り糸は600年です。プラスチックごみを海の生きものが食べて、死んでしまう事例も多く発生しています。

宮本　インドネシアでは打ち上げられたマッコウクジラの体内から約6キロのプラスチックごみが発見されました。また海で死んでいたウミガメ102頭の内蔵を調査したところ、すべての個体からマイクロプラスチックをはじめとする合成粒子が800以上見つかりました。

海と日本プロジェクトin三重県
レポーター 宮本梓氏

星野　今、プラスチックごみの中でも特に問題となっているのがマイクロプラスチックです。プラスチック粒子やペットボトルなどが海の中でもまれ、壊れて細かい5ミリ以下の断片になったものをマイクロプラスチックと呼んでいます。

井戸畑　プラスチックは今の社会になくてはならないもので、必ずしも悪ではありません。ただ減らしていかなくてはいけない。例えば使い捨てプラスチックを使わない。使った後はリサイクルする。それを皆で行うことが大事です。

自分たちが守ることで世界中に活動を広げる

星野　では最後のテーマ「きれいな海を次世代に引き継ぐためには」です。チャンさん、三重の観光大使として、三重県にとって海はどういうものだと思いますか。

チャン　三重県にいらっしゃる方は海の幸を楽しみにしています。その幸がごみであふれていたら情けない。僕たちが海を守ることによって日本中、世界中に発信できると思います。

小浦　我々は伊勢湾で育ちました。海は親父の海、私の海、息子の海。生活そのものです。

井戸畑　三重県は伊勢湾から熊野灘にかけて海岸線が1,000キロ以上あります。これは三重県の財産です。美しい景観や自然環境を保全して、次の世代に残していくことは私たちの使命です。皆さんと一緒に一人ひとりが考えていく必要があると思っています。今までの取り組みとしては住民の皆さん、NPO、企業の力を借りて「伊勢湾 森・川・海のクリーンアップ大作戦」を行っています。ごみを発生させないこと、そして清掃の二つの取り組みに加え、啓発活動等をこれからも続けたいと思います。

星野　22世紀奈佐の浜プロジェクトの活動を通じて小浦さんが目指していることは何ですか。

小浦　残念ながら私たちの代だけではごみが消えることはありません。若い人たち、子どもたちに呼びかけ、持続可能な社会をつくるために働きかけていきます。

宮本　清掃活動中、ごみの中にプランターがありました。自分はポイ捨てしませんが、台風のときに流された可能性もあります。外にプラスチック製品を置いておくこと自体、気をつけなければならないと思いました。

チャン　僕は食べものをおいしいとか、飲んでおいしいとか感じてもその行方を気にしたことがなかったなと。分別したつもりでも、その先を考えることが大事だと思いました。

星野　今日はありがとうございました。

海ごみワークショップ「みえの海の今を聞く」

伊勢湾で最も海岸漂着物が集まる鳥羽市答志島の奈佐の浜。第二部では、その奈佐の浜を綺麗にしようと活動している「22世紀奈佐の浜プロジェクト」の小浦委員長と、三重県環境生活部 大気・水環境課の北川周次郎さんが、イベント参加者とともに海ごみについて考えました。

司会　三重県庁の北川さん、なぜ答志島にこれだけのものが流れ着いてしまうのですか。

北川　木曽三川や三重県の一級河川に乗って流れたごみが、風向きや潮の流れによって多くが伊勢湾口部の答志島に漂着することが分かっています。

司会　奈佐の浜では年間、何回清掃活動をしているのですか。

小浦　2012年に「22世紀奈佐の浜」を発足し、年間700～1,000人くらいが島に来ていただき年に4、5回清掃活動を行っています。

司会　ごみの内容はどのようなものですか。

北川　三重県のごみの特徴でもあるのですが、およそ6～8割が流木や木切れ。残りの20～30％がプラスチックごみ。ほとんどが流木です。

司会　小浦さん、昔も流木は流れてきていたのですか。

小浦　急に増えましたね。

司会　ごみを減らすために個人で気をつけられることはありますか。

北川　一人ひとりが少しでもペットボトルなど使い捨てプラスチックの使用を減らし、自分の問題だと思って賢くプラスチックを使っていただく。そして使い終わったらリサイクルに出すことが大切です。

小浦　日本海側では外国製品も多いのですが、答志島はペットボトルを回収して調査したところ99％が日本製でした。伊勢湾のごみは、日本のみんなが頑張れば綺麗になるんです。

イベント参加者　故意でなくても台風や大雨で家のものが飛んでいってしまったらごみとなり、海を汚すことになってしまう。今日をきっかけにいろいろ考えなければいけないと思いました。

企画・制作／中日新聞広告局

やめよう ポイ捨て

道路に落ちているごみでも、風雨により水路や河川に入れば、やがて海に流れ出し、どこかの海岸に漂着します。ポイ捨てをやめれば、そうしたごみを少しでも減らすことができます。

海岸漂着ごみの現状

愛知県や三重県の調査の結果、伊勢湾や三河湾の沿岸には多くの漂着ごみがあることが分かりました。

三重県			
1	高松海岸	（川越町）	
2	千代崎海岸	（鈴鹿市）	
3	鼓ヶ浦海岸	（鈴鹿市）	
4	御殿場海岸	（津市）	
5	香良洲海岸	（津市）	
6	松名瀬海岸	（松阪市）	
7	大淀海岸	（明和町）	
8	二見浦海岸	（伊勢市）	
9	神前海岸	（伊勢市）	
10	安楽島海岸	（鳥羽市）	
11	鳥羽白浜海岸	（鳥羽市）	
12	千鳥ヶ浜海岸	（鳥羽市）	
13	阿児の松原	（志摩市）	
14	奈佐の浜	（鳥羽市）	

愛知県			
15	西部海岸	（美浜町）	
16	内海海岸	（南知多町）	
17	山海海岸	（南知多町）	
18	篠島海岸	（南知多町）	
19	日間賀島海岸	（南知多町）	
20	恵比寿海岸	（吉良町）	
21	宮崎海岸	（吉良町）	
22	竹島海岸	（蒲郡市）	
23	三谷海岸	（蒲郡市）	
24	春日浦海岸	（蒲郡市）	
25	仁崎海岸	（田原市）	
26	白谷海岸	（田原市）	
27	伊良湖海岸	（田原市）	

※海岸漂着物の現況を把握するための現地調査をもとに作成（調査時期：愛知県（H22.11～12）、三重県（H21.11～H22.10））